

市民の安心と笑顔のために

No. 237 2021年2月3日 日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221/fax 218-5124

人道に外れた核兵器は、一日も早く廃止を（被爆者） （さとう議員） 平和の願いを共有し「ただちに条約批准を」

平和を願う多くの市民が待ち望んだ核兵器禁止条約の発効を前にした1月18日、札幌市議会財政市民委員会で、政府に批准を求める意見書の陳情2件（さっぽろ平和行動実行委員会と北区革新懇）が初審査されました。

委員会室にテレビカメラが入り、廊下にあふれた傍聴者が見守るなか、意見書の提出者を代表して5人が陳述をおこない、質疑が行われました。

日本共産党の佐藤綾市議は、札幌市被爆者の会会長で、市内の小学生に被爆体験を語り継ぐ活動を続けている廣田凱則会長に、「体験を語る思いを聞かせてほしい」と発言。廣田会長は、「核兵器は人道にはずれたもの。核兵器がいかに悲惨な状況を生み出すのかわかってほしい。平和な状況が、いかにありがたいかわかってもらいたい」と訴え、傍聴者の胸を打ちました。

佐藤市議は、「平和都市宣言をした札幌市として、ただちに条約の署名・批准を行うことを強く求めている」と、陳情の採択を迫りました。



委員会で「条約批准を」と陳述する市民（奥）

■「否決」から「継続審議」に。次は必ず「採択」を！

同様の意見書は19年第4回定例会で、日本共産党など3会派が提出しましたが、その際は、自民、公明が反対し否決となりました。しかし、今回は「継続審議」扱いとなり、平和を願う市民や被爆者の思いが、市議会を動かし今後につながる一歩前進を勝ち取りました。

佐藤市議は、市に対して、「特に平和事業やイベントなどに参加した子どもたちの声を聞かせてください」と質問。市の影山雄一・地域振興部長は、「戦争や原爆の恐ろしさがよくわかった、これからは毎年継続していくことが大切などの声が寄せられております」「二度と戦争を起こしてはいけないと思った、この話を引き継いでいき戦争や核兵器はいけないということを伝えていきたい、などの感想が寄せられております」と確実に平和の大切さが広がっていることに言及しました。札幌市は、平和都市宣言から3月で30年、その年に平和条約が発効する記念すべき年となりました。



採択を求めて発言する佐藤議員

佐藤市議は、平和首長会議、日本非核宣言自治体協議会、核兵器廃絶平和都市宣言に加盟している札幌市が、今後とも市民の平和への願いを受け止めて、平和事業を活発にしこの理念を広げ、核兵器禁止条約への参加を日本政府に求めていくべきと採択を強く迫りました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。